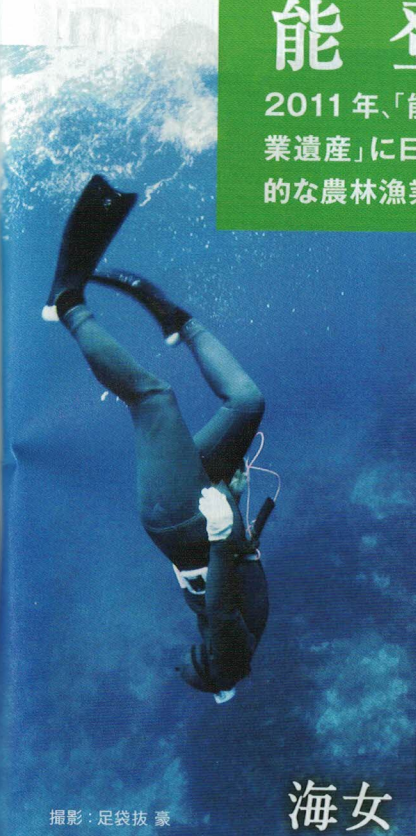


能登の里山里海

2011年、「能登の里山里海」が国連食糧農業機関の「世界農業遺産」に日本で初めて登録されました。自然を生かした伝統的な農林漁業の営み、文化や景観が評価されたのです。

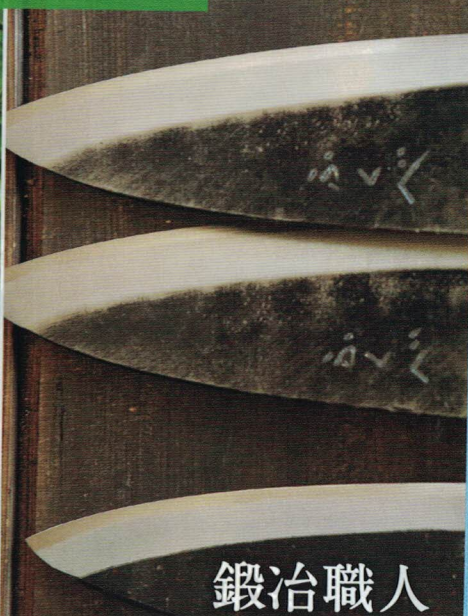


撮影：足袋 豪

海女



農園



鍛冶職人

伝統的な素潜り漁は平成26年、石川県の無形民俗文化財に指定された

「能登の肥沃な土壌が品質のよい作物を育てる」

能登の農業と漁業を陰で支える重要な役割を果たしている

「工場で作られた大量生産品は使い捨てですが、鍛冶職人が作った道具はメンテナンスをしながら大事に使えば、何十年も使うことができます」

「工場で作られた大量生産品は使い捨てですが、鍛冶職人が作った道具はメンテナンスをしながら大事に使えば、何十年も使うことができます」

干場健太郎さん(35)は2015年4月に、大学卒業後から勤めていた町役場を退職し、能登町で唯一の鍛冶屋「ふくべ鍛冶」の4代目として店を継ぎました。同時に、遠出が難しい高齢者のために能登町を中心に巡回する「移動鍛冶屋」も開始しました。週2回集落に着くと、各家庭の納屋で眠っていた鎌や鍬などの農具、「間切り包丁」などの漁具の修理を依頼する人が後を絶ちません。

「何代にもわたって使い続けてきた、人の思いや記憶がいっぱい詰まった道具をよみがえらせることに、やりがいを感じます。道具はお客さんの背丈やクセによっても使い勝手が違ってくる。ですから要望を細かく聞いて、少しでも使いやすいように修理しています」

使う人の思い出詰まった道具をよみがえらせる

干場 健太郎さん

ふくべ鍛冶 四代目「能登町」



事実、修理を依頼された道具のなかには、3代目の父、勝治さんはもちろん、初代の曾祖父、2代目の祖父が作ったものも珍しくありません。

● ふくべ鍛冶 / 能登町字宇出津新23 ☎0768-62-0785 営 8:30~19:00 休 日曜
取扱商品 / 間切り包丁、イカ割き包丁、鍬、鎌、鉈など [map P126 H-1]

ふくべ鍛冶
あまやない
えぞソフト
[P67]